

平成29年度 学校評価報告書

〔達成値〕 A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

益田翔陽高等学校

学校重点目標	分掌	重点目標	具体的取組事項	評価指標（到達したい状況・状態）	達成値	自己評価（反省及び次年度への課題等）	学校関係者評価
挨拶や時間厳守等、社会で通用するマナーを身につけた生徒の育成	生徒指導部	校内外で積極的に挨拶させる	生徒会、風紀委員会、教職員を中心に、日頃から積極的に挨拶を交わす。PTAと協力し各学期にあいさつ運動を行う。	日頃から、学校内・外で、あいさつができていると答えた生徒の割合	B 95.2%	生徒会や風紀委員会の主体的な活動を促したい。教員も含めて、さらに学校全体で明るくあいさつが交わされていくよう取り組んでいきたい。	B あいさつについて、外部からおほめの言葉を多々もらうなど、しっかりできていると思う。規則やマナー、服装は校内外問わずという意味で、生徒の育成に取り組んで欲しい。評価基準を高く設定しているため達成値が厳しい評価になっている。
		規律ある生活態度を確立させる	定期的に頭髪・服装検査を実施し、事後指導を徹底する。全教員で日常的に指導を行う。	頭髪・服装規定を守っていると答えた生徒・保護者と、日頃の指導ができたと答えた教員の割合	B 90.0%	2学期中盤から女子のスカート等が目立った。ネクタイも含めて指導していきたい。そして姿勢や服装を正し、緊張感を持って授業に臨むよう全教員で取り組んでいきたい。	
	1年学年部	基本的な生活習慣を育成する	時間を守り、日常の服装・頭髪の基準を守る	遅刻が無く、日常の服装・頭髪の基準が守られていたと答えた教職員の割合	B 教80.2% A 生87.1%	教員評価において、時間を守る点においては83.3%であったが、頭髪・服装が守られているという評価は77.1%と低く、2年次以降引き続き指導が必要である。生徒の評価として、時間を守る点においては90.1%と高く、程度の差はあるが、高く評価しており、意識して生活していることがうかがえる。	
	2年学年部	時間を守る	朝礼や各授業の始業チャイムは、自席で着席して聞かせる。	始業チャイムを自席で着席して聞かせることができたと答えた教職員、チャイムを自席で着席して聞いたと答えた生徒の割合	B 教86.7% A 生95.8%	教員評価が生徒より低いのは、一部の生徒がすぐ着席しない事だと考える。その場の指導だけでなく面談等を通じての指導を行いたい。あわせて、教員評価項目に「わたしは・・・」だけでなく「2年生は・・・」という項目があった方が考察しやすかったと反省している。	
	3年学年部	校内外を問わず正しい服装をしていることを確認させる。	校内外を問わず正しい服装をしていることを確認させる。	始業時・終業時に正しい服装をしていると答えた生徒の割合と、校外で正しい服装をしていると答えた生徒の割合、正しい服装を確認させていると答えた教員の割合。	C 46.0%	リボンやボタンなど自分の「正しい着こなし」の基準が低いことに気づかせられなかった。自分の基準ではなく社会の基準に照らし合わせて行動することを指導していきたい。	
自己理解を進め、他者への思いやりをさりげなくできる生徒の育成	図書研修部	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒の割合	A 92.1%	HR活動は、学年部の協力のもと毎学期授業公開して、全校体制で実施できた。また、視聴覚教材の活用や講演会の企画も継続して、生徒の人権意識向上に努めたい。	A 人権・同和教育について積極的に取り組みされている。講演会等を通じ理解を深められるよう続けて欲しい。学校になじみず退学される生徒もいる時代なので、そういう生徒がでないよう支援して欲しい。読書感想文等の取り組み、指導を評価する。
	保健相談部	教育相談体制の充実	教育相談委員会の機能強化と教職員への啓発	情報共有の場や教育相談小委員会等が適宜開催され、生徒支援にあたったと答えた教職員の割合	A 93.9%	担任と情報を共有し、必要に応じてSS会、小委員会等を開催して、生徒支援に当たることができた。今後も会の機能・充実に努め、担任や関係教職員と連携し、早期支援に当たりたい。	
基礎学力の定着や専門的な知識や技能の向上を図り進路実現にチャレンジする生徒の育成	教務部	授業力の向上と基礎学力の育成	I C T を活用し、授業改善を図る。	授業でICT機器を活用することで授業が分かりやすくなった、と答えた生徒の割合。	B 84.8%	昨年度より3.9%アップした。先生方の「わかる授業」を目指した授業改善の効果ではないかと考える。引き続き授業改善を図るとともに、授業のねらいを明確にした授業実践をお願いしたい。	B 学校の様子や取り組みについて、ホームページを活用されており、しっかりと情報の発信ができています。地域に開かれた学校として引き続き継続を望みます。資格・検定に対してモチベーションがあがるように、早くから将来への目標を見つけさせ取り組みたいと思う。昨年より高いICT機器活用の充実を子どもを通じて感じることができた。調べるとい意味では、本の活用も重要である。
	進路指導部	進路情報の迅速な発信	進路便り、ホームページ等で進路情報を迅速に発信する。	進路情報が迅速に伝わったと答えた生徒・教員の割合。	A 教97.9% 生89.7%	1月現在で進路だより7号、号外2号を発行し、ホームページに迅速にアップした。今年から全クラスに求人票を配布した。進路情報を迅速に共用フォルダにアップした。来年度も続けていきたい。	
	電子機械科	学習意欲の向上	専門科目において基礎的な知識と技能の定着を図るとともに、資格取得に積極的に挑戦させ、多くの成果・成功を体験させ、学習意欲を向上させる。	資格取得・授業態度に関するアンケート結果	A 保90.7% 教100%	資格・検定取得に対して科としての支援はしているが、生徒の「私は資格取得に挑戦している」は48.4%であった。経済的なこともあるかも知れないが、進路指導と併行して資格取得を奨励していきたい。	
	電気科	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に合格及び技能修得した生徒の割合	C 67.6%	補習は計画的に行うことができた。しかし、家庭での振り返りが少なく学習習慣がついておらず、合格者数の減少という形で現れている。補習のやり方・自己学習の仕方について次年度は考えたい。	
	生物環境工学科	基礎学力の向上	個々の進路の実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実する。	資格取得のための指導や個別指導、試験前の居残り学習や補習を行ったと答えた生徒の割合。	A 94.3%	今後も継続して、個別指導や居残り学習・補習等を行っていきたい。	
	総合学科	学力向上に努力する生徒の育成	総合学科生徒の学習活動の様子を「総合学科通信」として地域に発信することで、地域から理解してもらうとともに、地域を理解し貢献できる生徒の育成をはかる。	「総合学科通信」を年間12以上発信する。	A 9回	定期的な発行ができなかったが、生徒の活動状況や生徒の感想を盛り込み、総合学科の情報提供ができたと思う。今後も継続していきたい。	
社会との多様な関わりを通して自分の特性を生かした社会貢献ができる生徒の育成	総務部	広報活動の充実	学校通信・学校新聞の充実、メール発信とホームページの更新を積極的に推進し、閲覧数の上昇を目指す。	メール配信、学校通信・学校新聞の発行、ホームページの更新が充分に行われたと答えた保護者・教職員の割合	B 94.5%	定期的な学校通信の発行やメール発信を行っており情報の提供が行われたと考える。未加入者へのさらなる啓発が必要と考える。ホームページの更新は、教職員の活発な情報発信をおこなって頂いた。さらに各分掌、科、部活動等の協力を頂きたい。	A メール配信により、スケジュールについてしっかりとつかむことができた。情報を捉えるうえで必要です。人や地域に関わることは重要です。積極的に全生徒が2～3回以上そういう体験をして欲しい。地域連携をさらに進め、広報活動、生徒募集に活かして欲しい。
	保健相談部	美化活動の啓発	生徒保健委員会の活動充実と美化活動の強化	美化活動への啓発が行われ、清掃活動充実のための環境が整備された、と答えた生徒・教職員の割合	A 教84.3% 生95.8%	生徒は掃除への取り組みの自己評価は高かった。しかし、掃除が行き届いていないと感じている生徒もおり、今後も保健委員会の活動を充実させ、美化活動の強化に努めたい。	
	寮務部	情報の発信	保護者通信の発行やホームページの更新を積極的に行う。	保護者通信の発行やホームページの更新を積極的に行われたと答えた保護者・教職員の割合		保護者通信は1月末までで11回発行しました。本校ホームページの新着に寮のお知らせが常にあるようにした。いずれも中身をよりわかりやすくできるとよい。	
	農場部	魅力ある農業教育の推進	地域連携・貢献事業、校内連携活動の推進	実施回数 2 5 回	A 25回以上	今後も地域連携・貢献事業、校内連携活動の推進して、魅力ある農業教育を行ってきたい。	